

平成29年度事業計画

<公益財団法人電通育英会の事業目的の確認（定款第3条より）>

公益財団法人電通育英会は、優秀でありながら経済的な理由により修学が困難な、日本国内で学ぶ大学生・大学院生に対する奨学金の貸与・給付及び留学生に対する奨学金の給付を行うとともに、育英に関する調査研究・情報提供、大学生等を対象とした人材育成活動に対する助成事業を行い、もって社会を牽引する人材を育成することを目的とする。

<平成29年度事業計画について>

平成29年度は、前年度と同様に6億円を上回る基本財産及び特定資産の運用収益が見込まれます。当面は同程度の収益が継続すると見込まれるため、育英事業の拡充を図ります。拡充および変更のポイントは以下の通りです。

- 1) 平成28年度募集（平成29年4月入学）では、理系部門にも対象学問領域を拡大したこともあり、一般枠・震災支援枠とも過去最大の応募数となりました。

	募集数	応募数	文系希望	理系希望	内定数
一般枠	60名	99名	57名 (57.6%)	42名 (42.4%)	71名
芸術枠	10名	9名			6名
震災支援枠	15名	44名	26名 (59.1%)	18名 (40.9%)	21名

- 2) 平成29年4月入学者については、入学一時金を、一般枠および芸術枠とも10万円増額し、30万円を給付します。震災支援枠は、平成23年の募集開始から30万円。
- 3) 平成29年度募集（平成30年4月入学）については、一般枠の募集人員を前年から更に10名増やし70名とします。また、一般枠では、「両親のいない」生徒に限り、指定高校各1名推薦とは別枠を設けます。
震災支援枠の募集は、平成28年度にて終了しました。（詳細3ページ参照）

また、助成事業については、大学及び学生が応募しやすくするため、これまでの助成金額を上限100万円に一本化し、「大学・学生枠」と「一般枠」に分けて募集・選考しました。結果、13団体の事業に4月以降助成することにいたします。

1-1. 大学生への奨学金支給事業 <公益事業1>

(1) <一般枠>大学生への奨学金給付（高校時予約採用）

平成29年度の大学進学予定者に対して、給付奨学生の募集を平成28年6月に行ない、平成28年7月の選考委員会で71名が内定しました。前年度の一浪生9名も含めた80名の内定者のうち、平成29年4月に当財団指定の大学に入学した者に対し、奨学金の給付を開始します。（平成29年4月入学者数は、60名と想定）

平成29年度の給付者総数は、平成26年度採用の45名、平成27年度採用の44名、平成28年度採用の69名、合わせて218名（想定）となります。

また、平成29年度は下記の通り募集・予約選考作業を行います。（平成30年度入学）

①給付対象：当財団が指定する国公立高等学校の3年生で、在学学校長から推薦された者。成績優秀かつ学費の援助が必要と認められる者で、当財団指定大学への入学を条件とする。両親がいない者は、別途推薦できる。

②給付金額：選考内定時の受験等助成金100,000円、入学一時金300,000円、のほか、月額60,000円・期間は最長4年間。

③予約採用者数：年間70名程度。

④採用方法：予約採用者は、主要国立大学進学者数ランキング上位の国公立高校（全国約150校）より各校1名推薦された候補者の中から、選考委員会での書類選考、選考委員による面接選考を経て、理事長が決定する。

⑤初年度指定大学不合格の場合、次年度の再受験を認める。（所謂「一浪」まで可）

一般枠奨学金：（29年度予算）183,960,000円 @102万円×60名+@72万円×158名+
@10万円×90名
（28年度予算）160,120,000円 @92万円×55名+@72万円×141名+
@10万円×80名

(2) <芸術枠>大学生への奨学金給付（高校時予約採用）

当財団の特色を出すための制度で、平成23年度入学から奨学金を給付しています。

平成29年度の芸術系の大学・学部進学予定者に対して、給付奨学生の募集を平成28年6月に行ない、平成28年7月の選考委員会で6名が内定しました。前年度の一浪生7名も含めた13名の内定者のうち、平成29年4月に当財団指定の大学に入学した者に対し、奨学金支給を開始します。（平成29年4月入学者数は、10名と想定）

平成29年度の給付者総数は、平成26年度採用の4名、平成27年度採用の7名、平成28年度採用の5名と合わせて26名（想定）となります。

また、平成 29 年度も下記の通り募集・予約選考作業を行います。（平成 30 年度入学）

- ①給付対象：当財団が指定する国公立高校(全国 150 校)の 3 年生で、在学学校長から推薦された者。成績優秀かつ学費の援助が必要と認められる者で、当財団指定の芸術系の大学・学部への入学を条件とする。
- ②給付金額：選考内定時の受験等助成金 100,000 円、入学一時金 300,000 円のほか、月額 60,000 円・期間は最長 4 年間。
- ③予約採用者数：年間 5 名程度。
- ④採用方法：「(1) <一般枠>大学生 への奨学金給付」と同様。
- ⑤初年度指定大学不合格の場合は次年度の再受験を認める。（所謂「一浪」まで可）

芸術枠奨学金：（29年度予算） 22,220,000円 @102万円×10名+@72万円×16名+
@10万円×5名
（28年度予算） 24,600,000円 @92万円×10名+@72万円×20名+
@10万円×10名

（3）<震災支援枠>の大学生への奨学金給付(高校時予約採用)

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災で被災した者を対象とした奨学金制度です。

平成 29 年度の大学進学予定者に対して、給付奨学生の募集を平成 28 年 6 月に行ない、平成 28 年 7 月の選考委員会で 21 名が内定しました。前年度の一浪生 1 名も含めた 22 名の内定者のうち平成 29 年 4 月に当財団指定の大学に入学した者に対し、入学一時金の支給と奨学金の給付を開始します。（平成 29 年 4 月入学者数は、15 名と想定）平成 29 年度の給付者総数は、平成 26 年度採用の 2 名、平成 27 年度採用の 7 名、平成 28 年度採用の 17 名と合わせて 41 名（想定）となります。

〔平成29年度以降の募集・予約選考作業について〕

この<震災支援枠>の奨学金等は、平成23年6月の理事会で決議された「特定費用準備資金」からの支出です。平成24年度から26年度までの3年間、各年15名（計45名）の採用を予定していました。45名の採用枠に対し、平成28年度募集・採用にて45名枠に到達するため、平成28年度の募集をもって、終了いたします。

震災支援枠奨学金：（29年度予算） 34,020,000円 @102万円×15名+@72万円×26名+
@10万円×0名
（28年度予算） 25,440,000円 @102万円×15名+@72万円×12名+
@10万円×15名

(4) 大学奨学生を対象とした「海外留学・活動支援金」の給付

当財団の大学奨学生を対象に、海外留学・活動を希望する者に対して支援金を給付する制度を平成 26 年度に導入し、平成 27 年度には内容を拡充し、利用者も増加しつつあります。

大学生海外留学・活動支援金：	(29 年度予算)	8,500,000 円
	(28 年度予算)	8,500,000 円

1-2 大学院生への奨学金給付事業 <公益事業1>

平成 25 年度採用から、大学院奨学生の対象を当財団の大学奨学生に限定する制度に変更しています。

(1) 大学院奨学生（学部予約）への奨学金給付

平成 29 年度の大学院進学予定者に対する募集を平成 28 年度に行ない、書類選考及び面接選考の結果、12名を採用内定としました。このうち、平成 29 年 4 月に当財団指定の大学院に進学した者に対し、大学院修士課程 2 年間、月額 8 万円の奨学金給付を開始します。平成 29 年度の給付者総数は、平成 28 年度採用 6 名と合わせて 18 名（想定）となります。

また、平成 29 年度は下記の通り募集・選考作業を行います。（平成 30 年度進学）

①給付対象： ・当財団の大学奨学生で、書類提出やセミナー参加などの奨学生の義務を果たしていること

・キャリア形成上、修士課程への進学に必然性が認められる者

・成績優秀で、かつ学費の援助が必要と認められる者

②給付金額・期間： 月額 80,000 円、給付期間は 2 年以内とする

③予約採用者数： 10 名程度

④採用方法： 書類選考、面接選考を経て理事長が決定する。

例年、願書受付は大学 4 年生の 11 月であったが、今回より大学 3 年生の 2 月に前倒し変更した。書類・面接選考を経て、4 月に内定予定。

大学院生奨学金	：	(29年度予算)	17,280,000円	@96万円×18名
		(28年度予算)	14,400,000円	@96万円×15名

(2) 大学院奨学生を対象とした「海外留学・活動支援金」の給付

当財団の大学院奨学生を対象に、海外留学・活動を希望する者に対して支援金を給付する制度を平成 26 年度に導入し、平成 27 年度には内容を拡充し、利用者も増加しつつあります。

大学院生海外留学・活動支援金	：	(29年度予算)	1,500,000円
		(28年度予算)	1,500,000円

(3) 大学院留学生（現地採用）への奨学金給付

平成 22 年度から行っておりました中国からの大学院留学生の受け入れは、平成 26 年度の採用をもって 5 年の協約期間満了となり、中国教育部との合意により終了となりました。

平成 29 年度の給付者総数は、給付期間が 3 年間のため、平成 26 年度採用の 5 名に、月額 16 万円の奨学金を残り半年について給付し、平成 29 年 9 月をもって全員奨学期間終了となります。

留学生奨学金：（29 年度予算） 4,800,000 @96 万円×5 名

（28 年度予算） 15,360,000 @192 万円×5 名+@96 万円×6 名

<参考>今後3年間の奨学生数の計画

	平成29年度 2017年度	平成30年度 2018年度	平成31年度 2019年度
大学奨学生（一般） 〈高校予約〉	9年目 1年生～4年生 218名	10年目 1年生～4年生 243名	11年目 1年生～4年生 269名
大学奨学生（芸術） 〈高校予約〉	7年目 1年生～4年生 26名	8年目 1年生～4年生 27名	9年目 1年生～4年生 25名
大学奨学生（震災支援） 〈高校予約〉	6年目 1年生～4年生 41名	7年目 1年生～4年生 39名	8年目 1年生～4年生 32名
大学院奨学生	5年目 1年生～2年生 18名	6年目 1年生～2年生 22名	7年目 1年生～2年生 20名
大学院留学奨学生 * 半期在籍者を含む	8年目 中国 5名 計 5名	9年目 中国 0名 計 0名	10年目 中国 0名 計 0名

2. 奨学生対象のセミナー等の実施 <公益事業1>

(1) 奨学生全員に対する「奨学生の集い」の実施

毎年恒例の「奨学生の集い」を、平成 29 年度も現役奨学生全員（約 300 名）、OB/O Gの参加希望者、大学関係来賓等が一堂に会して、11月に東京で開催します。

- ・講 演：未定
- ・開催日：11月18日（土）
- ・会 場：電通ホール（予定）

奨学生の集い関連費： (29年度予算) 9,800,000円
(28年度予算) 9,800,000円 *奨学生の交通費含む

(2) 大学1・2年生に対するセミナーの実施

大学奨学生の1年生から3年生に対して、研修セミナーへの出席を義務付けています。平成 29 年度は大学1年生と2年生に対して、9月に1泊2日の合宿形態で実施します。汎用的スキルや課題解決力の育成などを目的にグループ討議、プレゼン演習等を行い、次世代人材を育成する一助とします。尚、大学生の人数が増加してきたため、これまで1・2年生と同時に開催していた3年生対象の研修（自己分析とキャリアデザイン研修）は、大学院生と同時期に実施します。下記（3）参照。

- ・1年生対象：ロジカルコミュニケーション研修
- ・2年生対象：課題解決力養成研修
- * 4年生については、3月に開催する「修了生交流会」への参加をもって代替します。

大学生1・2年生セミナー関連費： (29年度予算) 9,300,000円
(28年度予算) 11,100,000円 *奨学生の交通費含む

(3) 大学院生と大学3年生に対するセミナーの実施

大学院奨学生および大学院留学奨学生に対して、セミナーを8月に1泊2日の合宿形態で実施します。内容は、奨学生の研究発表、講師による講演、グループ討議、交流会で構成します。平成 29 年度は、大学3年生も同時期に実施。内容は、自己分析とキャリアデザイン研修です。研修自体は大学院生と3年生は別内容ですが、相互に交流できる機会も検討します。

大学院生・大学3年生セミナー関連費：
(29年度予算) 6,300,000円
(28年度予算) 2,500,000円 *奨学生の交通費含む

(4) 修了生交流会

卒業・修了予定の大学・大学院奨学生（留学生含む）を対象としています。奨学生の卒業・修了後の各界での活躍を期待して、当財団の選考委員、大学関係者など来賓出席のもと、「修了生交流会」を平成30年3月に東京で開催します。

修了生交流会関連費：	(29年度予算)	5,100,000円	
	(28年度予算)	4,200,000円	*修了生の交通費含む

3. 大学教育における人材育成に役立つ調査データ・情報の提供 <公益事業1>

(1) 会報誌「IKUEI NEWS」の発行（年4回）

平成28年度は引き続きシリーズ特集テーマを「自分を育てる学生生活の過ごし方」とし、4月号「大学時代から運動を習慣づける」、7月号「現代若者の恋愛・結婚事情」、1月号「「資格」と正しく向き合う」を特集しました。いずれのテーマについても、大学教職員やキャリア教育の研究者へのインタビューと大学生の意見や感想を取材しました。

10月号では、28年7月に京都大学・東京大学と共同開催した「大学生研究フォーラム」を特集しました。

平成29年度も、大学生のキャリア形成や大学生活を中心に、現場情報を大学生及び大学教職員に対し提供していきます。また「大学を訪ねて」、「先輩！こんにちは」、「アメリカン・キャンパス・ライフ」等の連載企画は継続する予定です。

主要読者層は給付中の奨学生及びOBOG、大学関係者（学長室及び学生部）、教育関係者、奨学財団、全国主要図書館、全国の新聞社であり、大学・高校関係者等、配布先を増やしていきます。部数は、「大学生研究フォーラム」参加者等から毎年30名前後の定期送付希望者があるなど増加傾向で、平成29年度は各号約4,000部を見込みます。

会報誌関連費： (29年度予算) 26,000,000円
 (28年度予算) 26,000,000円

(2) 調査研究

平成29年度は、以下3件の調査を実施する予定です。

- ①東京大学（中原研究室）と共同で実施する「イノベーター人材育成調査」
- ②京都大学（溝上研究室）と共同で実施する「トランジション調査（仮称）」
- ③東京大学（中原研究室）と共同で実施する「トランジション調査（仮称）」

尚、②および③については、平成30年度に実施計画中の「トランジション研究ワークショップ」で調査結果を発表する予定です。

調査関連費： (29年度予算) 23,500,000円
 (28年度予算) 10,000,000円

(3) 第10回大学生研究フォーラムの開催

大学生キャリア意識調査の結果など大学生研究成果の情報発信の場として、また大学生研究の課題発見のための場として、毎年「大学生研究フォーラム」を開催しております。

教育学・心理学・青年若者論等の教員・研究者及び高校教諭、学生を対象にシンポジウムの内容を充実させてきました。

平成 29 年度のフォーラムは、第 10 回となります。8 月 18 日京都大学・高等教育研究開発推進センター、東京大学・大学総合教育研究センターとの 3 者共催で、「10 年目を迎えた大学生研究フォーラム～10 years リフレクション～」というテーマのもと、講演会、分科会等で構成します。フォーラムの内容は、IKUEI NEWS 10 月号にて特集する予定です。尚、同フォーラムは今年度が最後となり、次年度からは、「トランジション研究ワークショップ」として新たな企画内容で実施する計画です。

フォーラム関連費：	(29年度予算)	6,800,000円
	(28年度予算)	8,500,000円

4. 大学生を対象とした人材育成に取り組んでいる非営利組織への資金助成 <公益事業2>

学生を対象とした人材育成を目的として、インターンシップ、ボランティア活動、その他セミナー活動などを行っている大学内組織や民間 NPO 団体を主な対象として、活動計画を広く募集し、選考委員会にて書類選考・面接選考を行った上で、資金助成をいたします。平成 29 年度は、応募総数 49 件から選考された、「大学・学生枠」7 団体、「一般枠」6 団体（各 100 万円上限）、合計 13 団体に助成します。

平成 30 年度に向けては、下記の通り募集・選考作業を行います。

募 集：10 月に、若者対象の人材育成活動、キャリア支援活動を行う首都圏（東京・神奈川・千葉・埼玉）の大学・非営利組織に対して、募集要項を送付。同時にホームページにも募集要項を掲載。平成 30 年1月中旬が応募締切。

選 考：平成 30 年 2 月に、選考委員会にて書類審査を行い、その後、活動計画のプレゼンを受けて選考する。

<選考基準>

大学生等の人材育成効果に加えて①応募団体の過去の活動実績 ②活動の目的・有用性 ③実施計画の妥当性 ④計画遂行力 など、総合的に評価する。

人材育成活動助成事業関連費： (29年度予算) 13,300,000円
(28年度予算) 10,600,000円

平成 29 年度助成「大学・学生枠」7 団体

・学生団体 GEIL	学生のための政策立案コンテスト
・NPO 法人 サイエンスリンク	サイエンスリンクフェスタ
・東洋大学 加子母 木匠塾	学生による地産材を利用した体験型木造建築実習
・法政大学市ヶ谷ボランティアセンター「チーム・オレンジ」	学生の力を活用した東日本大震災復興支援プロジェクト
・まつだい早稲田じょんのびクラブ	十日町市松代・早稲田交流プロジェクト
・立教大学コミュニティ福祉学部 東日本大震災復興支援プロジェクト	①陸前高田交流プログラム ②気仙沼・大島交流プログラム ③いわき交流プログラム
・早稲田大学 平山郁夫記念ボランティアセンター	気仙沼市における復興支援と地域・コミュニティづくり

平成 29 年度助成「一般枠」6 団体

・ NPO 法人 エデュケーション・ガーディアンシップ・グループ	海外高校生と日本人高校生による国際フォーラム及び国際交流フェア
・ NPO 法人 大学宇宙工学コンソーシアム	The 8th CanSat Leader Training Program
・ 一般社団法人 日本学生会議所	大使館・国会議員インターンシップ派遣事業、および講演会・シンポジウムの企画運営活動
・ NPO 法人 BOON	こんぺいとうゼミ～教員志望者の人材育成講座～
・ NPO 法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	国際理解教育ユースファシリテーター育成事業
・ NPO 法人 ユースコミュニティー	学習支援を通じた社会貢献に取り組む学生ボランティアのリーダー養成プロジェクト

平成 29 年度主要行事 年間日程 予定表

	日 程	場 所
第21回理事会（決算）	6月7日(水)11:00～	帝国ホテル 扇の間
第7回定時評議員会	6月22日(木)11:00～	帝国ホテル 扇の間
第22回理事会（臨時）	6月22日(木)15:30～(予定)	帝国ホテル 扇の間
大学奨学生選考委員会	7月7日(金) 頃予定	電通銀座ビル4F会議室
大学生研究フォーラム	8月18日(金)	京都大学
大学院生・大学3年生セミナー	8月26(土)・27日(日)	クロスウェーブ船橋
大学1・2年生セミナー	9月16日(土)・17日(日)	湘南国際村センター
第16回資産運用委員会	10月20日(金)13:30～	電通銀座ビル4F会議室
第23回理事会（資産運用等）	11月17日(金)11:00～	電通銀座ビル8F会議室
奨学生の集い	11月18日(土)予定	電通ホール
助成事業選考委員会	平成30年2月予定	電通銀座ビル4F会議室
第17回資産運用委員会	平成30年2月23日(金)13:30～	電通銀座ビル4F会議室
修了生交流会	平成30年3月予定	帝国ホテル予定
第24回理事会（予算）	平成30年3月22日(木)11:00～	帝国ホテル 扇の間